



フレンズ

山梨県立かえで支援学校相談・支援通信 第39号 平成23年3月1日発行

※「フレンズ」は、かえで支援学校の校歌(杉本竜一氏作)です。本校HPにてお聴きください。

頑張っている小学校の取り組みを紹介します！

<通常の学級>

『通常の学級に在籍する行動特性のある児童理解・対応の仕方・支援員のかかわり等の工夫をしている学校』

2年生の時は3学級だったが、3年生になり1クラス38名の2学級。対象児の保護者が、支援員による補助は了解したが、取り出しての個別対応は希望しなかった。1学期は、教室から抜け出したり大声を出したりすることが目立った。授業中急に立ち歩いたり掃除中もふと抜け出して、本棚へ本を取りに行き読んでいた。支援員に皆と同じ事をするよう促されると反抗的な態度をとる状態であった。

まず、「本児は、決して先生を困らせようとしてやっているのではなく、せざるを得ない理由がある」と理解をし、本を読む理由は、①授業内容が聞いていてわからないからではないか②見ることの方が本児には意味が伝わりやすいのではないかと③騒ぐよりも静かにしている方が賢明ではないかと本児自身が考えたのではないかと等推測された。そこで、支援として、①担任は授業をすすめる際に、説明とワークや作業的なことを交互に入れ、言葉だけで推し進める時間を短くする②聞くことが厳しい時は、その授業に関係のある本（資料集等）なら見てもよい③約束は文字で書きとめておく。授業中に本を見ている、支援員が約束を書いたカードを見せ確認すると思い出し、行動を改めることができるようになっていった。

担任と支援員がチームティーチングを上手に展開し、児童理解に努めて成果をあげたケースであった。

<特別支援学級>

『校内の自閉症・情緒障害特別支援学級と知的障害特別支援学級で協力し、有効的な学習支援体制の工夫をしている学校』

知的学級在籍4名、自閉症・情緒学級在籍3名、担任各1名。支援員1名が全時数の7割程度入る体制。また、主に低学年が帰る6校時、通常の学級で支援が必要な児童や来年度入級予定児も校内支援で学習にきている。

今年度知的学級に入級してきた4年児童が、反抗的な態度や粗暴な行動が多く、集団をかき乱す行為が目立ち、個別対応の必要性を先生方が感じていた。そこで、教育課程を見直し、**学習内容と担当教員の配置を変えた**。例えば、「木曜日1校時は、対象児と知的学級担任で個別、知的学級児童2名を支援員が、情緒学級児童3名と知的学級児童1名の4名を情緒学級担任が受け持つ」「火曜日3校時は、情緒学級児童1名に担任が付き添って交流学級へ行き、他児達は知的学級担任と支援員で学習を組む」等、柔軟な対応により、個別の時間を作り、集団が苦手な情緒学級児童にも担任の支援を入れることができた。

「知的は知的で、情緒は情緒で」と校内で分けてしまわずに、同じ学校の児童として支援学級教員が集団としてかかわり、成果をあげたケースであった。

お願い

今年度から、どこの支援学校への依頼であっても、センター的機能の「訪問支援」「研修支援」を利用の場合には、各市の教育委員会へ派遣依頼書を写しを提出するとともに、終了後報告をすることになっています。今年度受けた支援について、各市教育委員会へ報告が済んでいない公立園・小中学校は、お電話で結構ですので、報告をお願いいたします。

INFORMATION

＜担当：小学部主事島田＞

＜担当：中学部主事松澤 高等部主事荻原＞

*入学予定者在籍の園・学校にはすでに文書が発送されています。

★「フレンズ」のバックナンバーを、ぜひHPでご覧ください。

◆◆◆ この通信に関するお問い合わせは ◆◆◆



検索